北野天満宮

【伝説/平安/北野・西陣】

901年、学者・政治家であり、詩人でもあった菅原道真（845～903年）は、皇室での権力闘争に敗北した後、京都から左遷されました。左遷から2年後に道真が死去して間もなく、京都は疫病と自然災害に繰り返し見舞われました。これらの災難は、道真の復讐心によるものだと考えられたため、皇室は実在の人物を神として祀った日本初の神社である北野天満宮をただちに建設し、道真の名誉を回復させ、彼を称えました。

学業における功績と詩作に対する情熱により、道真は学問と芸術を守護する天神として崇められるようになりました。北野天満宮のほか、全国各地に約12,000の天満宮があり、学業の成就を祈願する多くの学生たちが参詣しています。試験シーズンの前は特に参拝者が多くなります。

建立後1100年の歴史のなかで、志を抱いた受験者たちのほか、貴族や身分の高い武士、皇族なども何世代にもわたって北野天満宮を訪れ、祈ってきました。多くの著名な信奉者たちは、感謝の印として芸術作品や剣、鎧、手書きの文書など、神社に貴重な品々を捧げてきました。これらの一部は、敷地内の宝物殿に展示されています。

境内の建物の数々は、何世紀にもわたって再建を繰り返してきました。国宝に指定されている現在の社殿は1607年に建てられ、拝殿と廊下（石の間）で結ばれた本殿で構成され、すべてがひとつの屋根でつながっています。

牛は天神の使者とされているため、社殿に至る道沿いや敷地内の至る所に牛の像があります。牛との結びつきは、東アジアの干支暦で道真が丑年生まれであったことに由来しています。

道真は梅の木を好んだと言われているため、各地の天満宮境内には、梅の木が植えられていることがよくあります。梅の花が咲くのは、北野天満宮が梅花祭を開催する2月から3月上旬です。北野天満宮の木から収穫された梅は保存され、12月に参拝者に販売されます。新年の幸運を呼び込むためのお浄めの儀式のなかでは、保存した梅をお湯に浸したものが飲まれます。

秋になると、社殿横の約 400 本の楓の木が燃えるような赤みを帯び、大勢の人々で賑わいます。もうひとつの人気イベントは、毎月 25 日に開催される北野天満宮の縁日です。